

學界の動き

日本人口學會

戦後の日本の人口現象は錯雑した社會經濟情勢の下に異常な變動を來している。ここにおいて日本の人口現象を各科學分野から綜合的に検討し、その現状と將來の傾向を明かにすることは、日本再建、特に經濟上及び公衆衛生上の諸問題の解決のために、必要缺くべからざる事柄である。

更に日本の人口現象は世界の情勢に及ぼす影響が極めて大なるにかんがみ、これを世界の人口現象の一環として研究することも甚だ必要である。そのためには特に我等の研究はどこまでも科學的客觀的に事實の把握に終始すべきである。さきに來朝せるロバート・F. Lorimer, ノードスタイン・F. W. Notestein 等の米國の著名な人口學者たちの等しく力説したところもまさにそれであつた。

これらの事態にかんがみ、日本における各方面の人口現象の研究者が相集つて昭和二十四(一九四九)年一月二十三日「日本人口學會」Population Association of Japanを創立した。この創立總會は芝白金臺町の公衆衛生院で開かれ、折から來朝中のマイアミ大學スクリップス財團人口問題研究所長タムプ

ソン博士 Dr. Warren S. Thompson が出席され激勵の挨拶があつた。定款の審議決定、役員の暫定的選出が行われたのち、會員森田優三氏から「最近の人口統計資料について」、會員曾田長宗氏から、厚生省所管の「最近の人口動態統計」について報告が行われ散會した。

第一回の總會および研究發表會は同年三月十九日午前九時から、前同と同じく公衆衛生院で行われた。

當日は、まず役員の選舉について正式の投票が行われたが、その結果は、次の如く前回の決定がそのまま確認された。

會長 下條康麿

理事 古屋芳雄 山中篤太郎 岡崎文規 水島治夫 森田優

三 館総

幹事 寺尾琢磨 美濃口時次郎

報告は午前中に次の如く行われた。

曾田長宗氏 昭和二十三年の人口動態について

三浦運一氏 蒙古人の人口生態

館総、上田正夫氏

社會の大きさによる基本的な人口現象の變化に関する人口統計學的研究

上原徹三郎氏 我國人口の地方的移動について

高橋梵仙氏 日本人口史上における中條流祖について

古屋芳雄、宮入正人氏

性病の蔓延状態について

午後は前同にも出席されたタムプソン博士の「アジアの人口問題」に關する有益な特別講演が行われ、それにひきつづいて篠崎信男氏 東京都近郊町村における産兒制限の實情について

渡邊定、森福省一氏
昭和二十二年の母の年齢別出生率について
久保秀史、熊澤清志、大森暢久氏

東京附近在住者の職業別出生力について
瀬木三男氏 乳兒死亡の動向について

菱沼從尹氏 粗死亡率と平均餘命との關係
水島治夫、上山教衛氏 結核死亡者の生命表について
それぞれ詳細なる報告があつて夕刻散會した。

第二回の研究發表會は、昭和二十四(一九四九)年十一月十三日、午前と午後にわたつて、同じく公衆衛生院で開催された。報告者の論題は次の如くであつた。

(1)篠崎、青木兩氏「血族結婚部落の人類學的調査報告」
(2)篠崎信男氏「精神作業能力調査報告」(3)上田正夫氏「最近における都市と農村の人口現象」(4)吉岡、諸岡兩氏「本邦

都鄙保健狀態の分析」(5)菱沼、淵脇兩氏「第八回生命表について」(6)瀬木三雄氏「死産の觀察」(7)古屋芳雄氏その他「人口妊娠中絶の實態について」(8)久保、湯淺兩氏「最近の婚姻統計について」(9)館稔、磯村光男兩氏「戦後に現われた婚姻の變化について」(10)本多龍男、中島龍太郎兩氏「東北地方の縁事移動について」(11)岡崎文規、佐藤寧子兩氏「有配偶人口の統計的觀察」(12)館稔、石井喜一兩氏「特殊動態離婚率について」(13)曾田長宗氏「戦後の婚姻と離婚統計」。またマツイ氏から「世界の人口現象」について、館稔、高木尙志氏から「將來人口について」それぞれ報告があつた。

因に日本人口學會の事務所は東京都港区芝白金臺町一ノ三九公衆衛生院内におかれている。
なお、右の學會のほかに、戦後日本の人口問題に關する朝野の關心がとみに高まつた結果として、戦前からの厚生省人口問題研究所とは別個に、内閣諮問機關として人口問題審議會が設置され、また民間の調査啓蒙機關として毎日新聞社人口問題調査會が、昨年七月から活動を開始したことを附記しておく。

(美濃口時次郎)